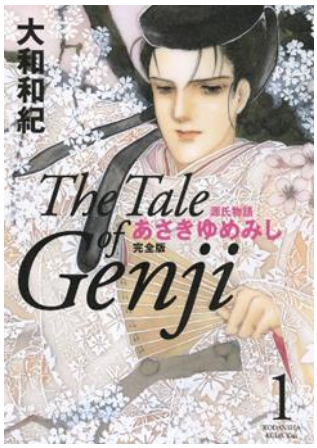
ライブラリーニュース

川口市立高等学校　No,2　2022 年 6 月号　　担当者　3－11 楠生　3－11 長森

今月のライブラリーニュースは『源氏物語』特集です。
受験でもよく出題される物語をもう一度読み直して、
古典を更に深く学んでみませんか？



あさきゆめみし　完全版［1］
著：　大和　和紀
出版：講談社/KC デラックス

紫式部原作の古典の名作である『源氏物語』を、美麗なイラストと丁寧な描写で楽しむことが出来る漫画です。
桐壺帝と桐壺の更衣から生まれた美しい皇子の光源氏は、亡くなった母に似た女性を探し求めて、その過程で様々な女性と恋をします。継母ではあるけれど愛しい母に似ているという藤壺、幼少期の頃から生涯を通して愛した美しい妻の紫の上など、個性豊かな登場人物によって描かれる恋物語です。
古典で習ったけれども内容が分からなかった、原文を読んで面白かったのでもう一度読んでみたい、という方にもオススメです。

新源氏物語（上）

著：　田辺　聖子

出版：新潮社/新潮文庫

源氏物語を新たな解釈で表した、古典が苦手な方にも読みやすい田辺聖子訳の現代語訳シリーズの第一巻。
その中でも今回は、図書委員の一押しシーンをご紹介します。
主人公である源氏が病気の乳母の見舞い中に「夕顔」という女性と出会う場面。
源氏物語に出てくる女性の名は皆それぞれのエピソードになぞらえて付けられており、この夕顔も例に漏れません。
下町にある夕顔の家の庭は手入れがされておらず、囲いにつる草や白い花が絡まっていました。そこで源氏は「うち渡す遠方人にもの申す…」（p.63）という古今集の歌を口ずさみます。この歌の下の句は「そのそこに白く咲けるは何の花ぞも」であり、源氏は暗にそこに咲く花の名前を尋ねていたのです。場面に合わせて名歌を巧みに使う紫式部の技量の高さが伺えます。
その後は、夕顔が家来を通して渡してきた花と洒落た歌の書かれた扇を見た源氏が、彼女に興味を持ち始める…という風に物語が展開していきます。

雑学紹介～紫式部は本名じゃない？～

源氏物語の作者の本来の女房名は「藤式部」と言われています。
紫式部の父が式部省の官僚・式部大丞だったことから来ており、「藤原式部の女（娘）」を略したものが女房名。
後世に源氏物語に登場する「紫の上」にちなんで「紫式部」とよばれるようになったそうですよ。